

散策ガイド

道後湯之町コース

(明治二十八年十月六日)



①

柿の木に
とりまかれたる

温泉哉
いでゆかな

②

山本や

うしろ上りに
蕎麦の花

③

稲の穂に
温泉の町低し

二百軒

④

黄檗の
山門深き

芭蕉哉
ばしようかな

⑤

花芒
はなすすき

墓いづれとも
見定めず

⑧

柿の木や
宮司か宿の

門がまえ

⑥

百日紅
こずえ

梢ばかりの
寒さ哉

⑨

古塚や
ふるづか

恋のさめたる
柳散る

⑦

亭ところどころ
溪に橋ある

紅葉哉
もみじかな



みどころ

夏目漱石も通った、道後の中心地の道後温泉本館をたずねよう。



▲道後の町並み（『創造都市松山』より）



▲昔（明治二十八年頃）の道後駅（「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より）

■夏目漱石（二八六七—一九二六）

この日のまち歩きについて
今日ハ日曜なり天気は快晴なり
病氣ハ輕快なり
遊志勃然漱石と共に道後に
遊ぶ三層楼中天に聳えて来浴の
旅人ひきもきらず

■道後鉄道

正岡子規と夏目漱石は、明治二十八年八月二十二日に開通したばかりの「道後鉄道」に乗って、愚陀仏庵のある一番町から道後まで出かけました。



▲夏目漱石

この日、子規は、漱石とともに道後の町を散策しました。

① 柿の木に

とりまかれたる

温泉哉

子規と漱石は、道後温泉本館を訪れました。この俳句は、三階から見えた、道後温泉を取り囲むように柿の木が植わっていた様子を表しています。

みどころ①

道後温泉本館の昔の写真と今の様子を
見比べてみよう。



▲昔の道後の町並み（『創造都市まつやま』より）

1894年（明治27年頃）に撮影されたものです。純和風建築の中に、洋風建築の技法も用いられていました。



鷺谷エリア

さぎだに



みどころ

道後温泉にまつわる 白鷺
伝説の地である鷺谷から道後の町並みを眺めてみよう。



白鷺伝説

道後温泉は白鷺が発見したという伝説が残っています。

「昔、脚を傷つけた二羽の白鷺が、毎日のように飛んで来て、同じ場所に舞い降りた。やがて、白鷺は元氣になつて飛び去った。これを見ていた村人が不思議に思つて、その場所を調べてみるとお湯がわき出ているのを発見した。以来、村人は病気の治療に、疲労回復に温泉に入るようになったと言われている。」



②

山本や

うしろ上りに

蕎麦の花

そば

鷺谷へと向かう山道のふもとから道後の町を振り返ると、蕎麦の花が見えた様子を表しています。(蕎麦の花については「右手・道後コース」の「2 砂土手エリア」参照)

みどころ②

鷺谷地区の昔の写真と今の町の様子を比べよう。



▲昔の鷺谷地区

この地域は、白鷺伝説があった場所と言われています。

③

稲の穂に

温泉の町低し

二百軒

鷺谷墓地へと向かう山道から振り返ると、数多くの商店や民家が軒を連ねている道後の町並みが見えた様子を表しています。

みどころ③

鷺谷墓地に向かう坂の上から道後の町を振り返ってみよう。

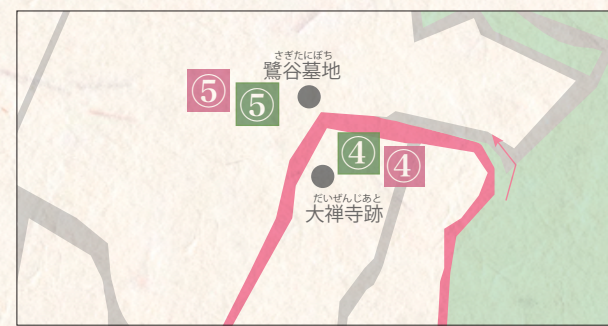


▲昔の鷺谷から見た道後の町並み

明治時代に道後鷺谷から眺めた道後の町並みです。左奥に湯築城跡があります。

大禅寺エリア

だいぜんじ



みどころ

あきやまよしふる いさにわゆきや なか
秋山好古、伊佐庭如矢、中
むらくさたお
村草田男といった偉人の眠る
鷺谷墓地をたずねよう。



▶大禅寺跡の石碑
〔松山観光ボランティアガイドの会〕
のホームページ
四国・松山まち歩き観光より〕



▲昔の大禅寺と養毛桜
〔子規会誌〕より〕

④

おうばく
黄檗の
さんもん

山門深き

芭蕉哉
ぼしょうかな

■ 芭蕉

芭蕉は、花や実がバナナに
似た植物です。昔は、布を作
る材料になっていました。



▲芭蕉

■ 黄檗の山門

黄檗の山門とは、大禅寺とい
うお寺の門のこと、現在のホ
テル椿館の場所にあります。

大禅寺には、養毛桜と呼ばれ
る桜がありました。花の形が
ちようど白鷺の繁殖期に首
や背中に生える養毛と
言われる飾り羽に似てい
たことから、この名前が
付けられました。

みどころ④

大禅寺が建っていた
時の様子を想像しなが
ら、歩いてみよう。

⑤

はなすすぎ
花芒

墓いづれとも

見定めず

■ 小島 久

小島久は、子規のひいお
ばあさんです。子規は、幼
いころに、久に愛情をも
って育てられたため、久
が亡くなったときは大層
悲しみました。

みどころ⑤

鷺谷墓地の高台から
道後の町を見てみ
よう。



▲すすぎの花

子規は、鷺谷墓地にある小島久のお墓をたずねましたが、彼女のお墓ではなく花をつけたすすぎしか見つけれなかったことを表しています。



みどころ

子規と漱石が散策している
様子を思い浮かべながら鴉溪
の風情を楽しもう。



▲昔の伊佐爾波神社への参道

明治時代のものです。右側に映っている建物は、花月亭を含めて数軒あった料理屋です。

⑥
百日紅
さるすべり
こずえ

梢ばかりの
寒さ哉
かな

花月亭の百日紅の花が散り、幹や枝ばかりになっている姿を見て、冬の寒さが近くまで迫っていることを感じている様子がうかがえます。



▲百日紅

⑦
亭とところどころ
たに
紅葉哉
もみじかな

溪に橋ある
紅葉哉
もみじかな

鴉溪に紅葉が映え、小料理屋が立ち並ぶ風情ある景色がうかがえます。



▲花月亭の様子（「子規会誌」より）

みどころ⑥

ふなや旅館の庭園から子規と漱石も歩いた
鴉溪の風情を楽しもう。

■ 花月亭

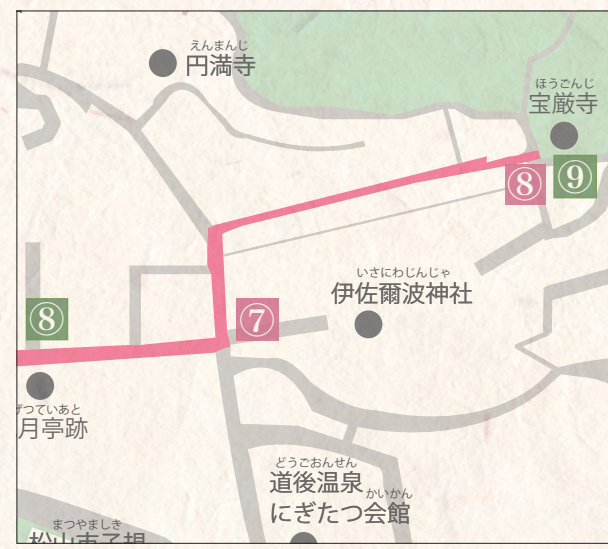
花月亭とは、伊佐爾波神社参道沿いに、数軒あった料理屋のうちの一つです。
玄関を入ると奥はすぐに清流と樹木に囲まれた自然があふれていました。

■ 鴉溪

鴉溪とは、石手から道後に流れる御手洗川沿いの溪流です。道後十六谷の一つで、現在もふなや旅館の庭園を流れています。
古くから景勝地として知られ、安芸の宮島の「紅葉谷」になぞらえて「新紅葉」と呼ばれていました。

花月亭〜宝厳寺エリア

かげつてい ほうごんじ



みどころ

昔の様子を想像しながら、宝厳寺へと向かう上
にぎさか 人坂を歩こう。



▲昔（大正13年頃）の宝厳寺
（櫛国書刊行会発行『ふるさとの想い出写真集 松山』より）

⑧ 柿の木や 宮司か宿の 門がまえ

花月亭前には、伊佐爾波神社の野
口光寛宮司の家がありました。その
広大な家とその門構えが立派であつ
た様子がうかがえます。

伊佐爾波神社

国の重要文化財に指定を受けて
いる日本三八大幡造りの社殿が今
も残っています。
伊佐爾波神社には、多くの和算
（日本の数学）の算額が奉納されて
います。

みどころ⑦

伊佐爾波神社の階段
を登り、道後の町を眺
めてみよう。



▲昔の伊佐爾波神社

⑨ 古塚や 恋のさめたる 柳散る

古塚の柳が散つているところを見
て、恋の終わりを感じている様子が
うかがえます。

古塚と宝厳寺

古塚とは、「一遍上人生誕地の碑
のことです。
宝厳寺は、時宗の開祖である一遍
上人の生誕地と言われています。境
内には、子規が詠んだ句碑をはじめ、
数多くの句碑・歌碑・詩碑が建てら
れています。

みどころ⑧

宝厳寺の境内を
探検してみよう。



▲昔の古塚と宝厳寺への道
左側の手前に映っている石碑は、一遍上人生誕地
の石碑です。（「子規会誌」より引用）